

# 一般財団法人 かわさき市民しきん

## 2017年度 事業報告書

### 1. 「かわさき市民しきん」の目的

当財団は、市民や企業の志のある寄付を募り、社会の課題解決や地域の活性化などの公益活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすく、人や命にやさしい地域にすることを目的とする。

### 2. 「かわさき市民しきん」が目指すもの ～「かわさき市民しきん」が目指す未来の川崎～

- ・寄付することが“自然”、“かっこいい”と思う市民が増える。
- ・市民自らの手で、川崎というコミュニティを豊かで快適にしていこうという気持ちが集う。
- ・コミュニティのなかで市民の「お金」がスムーズに循環し、自立して持続できる社会となる。
- ・寄付し、寄付されることで、市民の生活や気持ちが豊かで、快適になることを市民自身が実感できる。
- ・市民が積極的にかかわり、ワクワクして、サポートしたいと感じるプロジェクトに「お金」が集まる。

### 3. 2017年度を振り返って

2017年度は3年目の事業となりました。

[事業支援しきんあとおし2017]では、事業の応募はあったのですが、辞退となり、対象事業がありませんでした。対象事業の募集が今後の課題となりました。[事業支援しきん2016]事業では、実際の事業を実施し、当財団としてその視察を行いました。

[意思実現しきん いしずえ]は第1号の申し出があり「子ども食堂応援助成」を行うことができました。

[共感共鳴しきん えんたく]では、2016年度に実施したプロトタイプ事業である、川崎の中でジモト（地元）を増やしていく取り組み「もぎたてカワサキまるかじり！」の開催を支援し、2018年度以降の実施について検討を行いました。

公益財団法人の申請については、2016年12月に不認定の答申が出て、公益財団法人公益法人協会、公益財団法人助成財団センター、一般社団法人全国コミュニティ財団協会、認定特定非営利活動法人日本NPOセンターの4団体の代表者名で神奈川県知事宛に「不認定の理由に賛成できない点」についての公開質問状が出されました。残念ながら回答はもらえませんでした。2018年1月に再申請し、3月によりやく公益財団法人として認定されました。

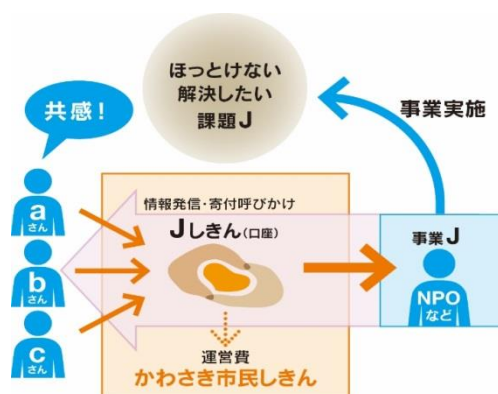
### 4. かわさき市民しきんの主な事業内容

#### (1) 助成プログラムの実施

##### ① 事業支援しきん あとおし

「川崎で今、何が必要か?」「川崎の課題は何か?」。実際に川崎市内で活動するNPOなどから、今必要とされている事業を募集します。そして、当財団を通して、それを広く市民に訴えその解決策(=NPOなどが行う取り組み)への寄付金を事業ごとに集めます。寄付者は支援したい事業を選んで寄付

をします。集まった寄付金から運営経費（寄付金の15%）を引き、それぞれの事業に助成します。



### ◆2017年度の「あとおし」実施報告

昨年度に続き3回目の「あとおし2017」の対象事業を募集しましたが、応募はあったのですが、辞退となり、「あとおし2017」としては、実施ができませんでした。

- ・助成対象事業の募集及び選考

募集説明会：6月17日（土）午前中 会場：高津市民館第1会議室

6月19日（月）夜 会場：パサールベース（武蔵新城）

対象事業募集期間：7月1日（土）～7月31日（月）

説明会や個別相談会に来た団体は2団体、実際の応募数は1事業でしたが辞退となりました。

### ◆「あとおし2015」の4事業の実施事業報告について

対象事業は2016年度に事業をそれぞれ集まった寄付金額の範囲で実施し、その報告会を6月の募集説明会と同時に開催しました。4事業の具体的な内容については、ニュースでも取り上げ、報告を行いました。

### ◆「あとおし2016」の3事業の事業実施について

あとおし2016の事業については、2017年度に実施し、事業実施に際して、担当者が視察を行いました。

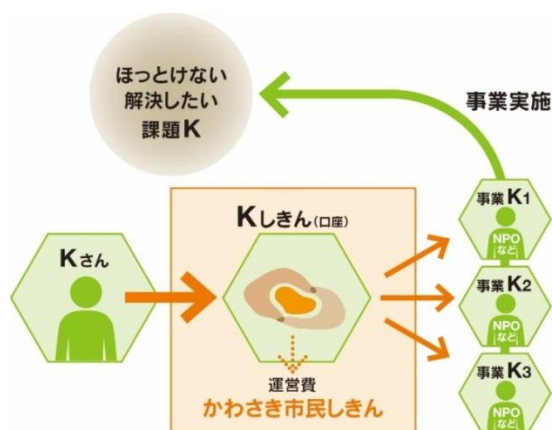
## ②意思実現しきん いしづえ

特定の目的のための“しきん”を当財団がお預かりし、その目的のために活動するNPOなどへ助成をするプログラムです。思いを形にして残すことができたり、故人の思いを後世に伝えることもできます。名称は自由に付けることができ、助成対象やテーマを指定することができます。事例として以下を参照。

- ・創業などの周年事業として、地域社会への恩返しを目的とした助成
- ・家族のご逝去にあたり、その方の志を残すための助成

### ◆2017年度の「いしづえ」の実施報告

2016年度に50万円の寄付の申し出があり、地域が元気になるような事業を応援したい、というIさんからのご寄付があり、地域の中に小さな誰もが参加できる「子ども食



堂」が多くできることを目的として「いしずえ／子ども食堂応援助成」を実施しました。

・子ども食堂についての調査とフォーラムの開催

いしずえの助成金の一環として、川崎市内の子ども食堂の調査を行いました。調査の目的としては、市内にどのくらい子ども食堂があるのか、実際どのような活動をしているのかを調査するものです。この調査は、専修大学の課題解決型インターンシップの学生と一緒に実際に子ども食堂に行き調査を行いました。(対象：川崎市内の約20の子ども食堂、調査時期2017年7-9月)

上記調査の報告の場として、また、川崎市内の子ども食堂同士のネットワークにつながるよう、フォーラムを開催しました。フォーラムでは、専修大学の学生が運営と調査報告を行い、実際に子ども食堂の運営を行っているお二人にお話をさせていただきました。その後参加者との交流を行い、活発な意見交換ができ、好評でした。

日時：11月19日(土) 14時～16時 場所：PASAR BASE(武蔵新城)

参加者：約50名

事例紹介：「ひらまこども食堂」 山本芙佐子さん、「てらこみーる」 河崎夏陽さん

・子ども食堂助成金の実施

子ども食堂フォーラム開催に合わせて募集を行いました。7団体の応募があり、選考委員会で助成内容を以下のように決定、理事会で承認いたしました。

団体名	申請額	決定助成額
たじま家庭支援センター	277,520	50,000
三田サポートわなり	100,000	50,000
グローバル文化協働支援センター	99,480	50,000
稲田堤@こども食堂	50,000	30,000
シェアサロンカフェリプル	20,000	20,000
木月こどもキッチン	92,040	50,000
まぶね食堂	178,720	50,000
合計		300,000

※選考委員名簿 (◎：委員長 ○：副委員長)

- ◎神原 理 専修大学商学部教授
- 杉原志保 NPO サポートセンター
- 千葉晋也 世田谷まちづくりフェンド運営委員、石塚計画デザイン事務所
- 荻野貴之 日本政策金融公庫川崎支店
- 中村茂 川崎市市民文化局コミュニティ推進部部長

### ③寄付文化創造に向けた講座・セミナーの開催

広く地域の課題解決に取り組む個人や団体に向けて、下記の通り、寄付文化創造のための講座・セミナーを開催しました。

- ・セミナー「寄付したい！と思う人を増やすためには ～寄付はその活動に共感し、“参加する”一つの方法です～」

日時：2017年10月5日 会場：高津市民館

講師：阿部真紀さん（認定NPO法人エンパワメントかながわ理事長）

参加者：9名

あとおし2015-2016対象団体で、認定NPO法人エンパワメントかながわ理事長の阿部真紀さんを講師に、寄付したいと思うきっかけなどについて考えるワークショップを行いました。

- ・越境ナイト

日時：2017年12月15日 19～21時

場所：二子玉川カタリストBAにて、

タイトル：「越境ナイト：世田谷×川崎 ～一年の終わりに、多摩川を眺めながら、“コミュニティの未来を創り出す方法”を考えよう～」

パネラー：福田紀彦さん（川崎市長）

廣岡希美（一般財団法人 かわさき市民しきん）

保坂展人さん（世田谷区長）

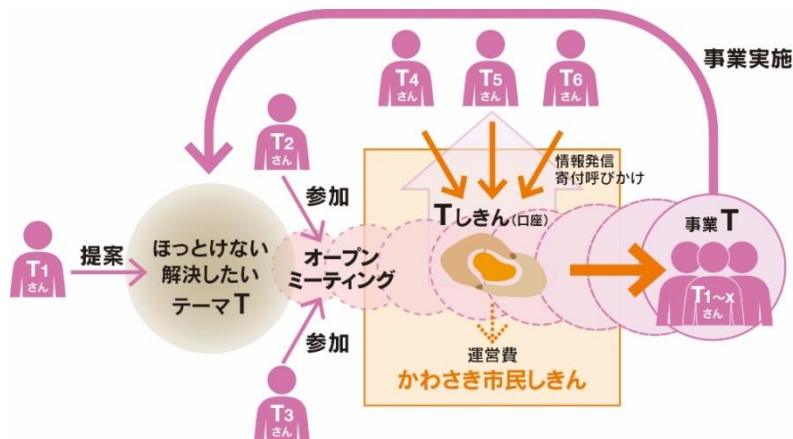
水谷衣里さん（世田谷コミュニティ財団設立準備会）

東浦亮典さん（東急電鉄）

コーディネーター：土肥真人さん（エコロジカルデモクラシー財団 代表理事）

参加者は最終的に106名に達し、大盛況の会となりました。「多摩川を挟んで、世田谷と川崎がつながり、民間発でコミュニティの未来をつくっていく。そんな取り組みを広げていくきっかけとなるイベントになりました。

### (2) 調査研究事業 共感共鳴しきん えんたく



独自のテーマ設定で川崎のさまざまな活動を調査・研究するプログラムです。参加者は「こども」

「環境」「介護」など、川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを当財団とともに提案し、運営に関わることができます。提案者は助成に必要な資金を当財団と一緒に集め、主体的にプログラムを展開します。

#### ◆2017年度「えんたく」の実施報告

2017年度は、2016年度に発足した、じもと川崎の魅力を発信する「チームもぎたて！」の活動を支援し、今後の「えんたく」の進め方について検討を行いました。

### (3)相談・支援事業

#### ①プロボノチャレンジ KAWASAKI2017 の実施

2016年度に川崎市が行うプロボノ事業のノウハウ移転先として支援を受け、2017年度はプロボノチャレンジ KAWASAKI2017 を単独で実施しました。市民が市民を支える環境整備を実現することを目指して取り組みました。

##### ■実施内容

説明会の開催：4回

支援団体：5団体、参加プロボノワーカー：18名

プログラム：オリエンテーション、キックオフミーティング、成果提案会

報告会の開催

##### ■成果

- ・NPO・市民活動団体等へのプロボノプロジェクトでの支援の浸透

川崎市内で活動する5団体を支援先団体としてプロボノプロジェクトを実現し、各団体の抱える課題をプロボノによって整理、解決等の支援をいたしました。参加した100%の団体が高い満足度を示しました。今年度の参加団体は、過去の支援先団体関係者からの紹介がきっかけとなっているところもあり、高い満足度は次年度へのつながりを見せています。

- ・参加のきっかけづくりの提供

様々な分野での経験と知識をもつ18名の社会人がプロボノワーカーとしてプロジェクトに参加。多様なスキルを支援先団体へ提供しました。企業人（若手からシニアまで）、公認会計士や行政書士などの個人事業者、デザイナーなど。また企業人も職種は様々で、食品関連から不動産管理や動物園飼育係など、多彩な人材が集まり、地域貢献への参加のきっかけを提供しました。

#### ②川崎住宅奨学金事業への支援

一般財団法人川崎住宅奨学会の奨学金事業への支援を行いました。2017年度が初年度という事もあり、学校への案内や応募者の取りまとめなどの支援を行いました。実際に20名の奨学生が選定され、事業がスタートしました。

### (4)その他の事業

#### ①寄付者獲得プロジェクト

2017年度は、川崎市内で趣旨説明や寄付を募る「市民しきんマーケット」の開催は行いませんでした。

あわせて、かわさき市民しきんが集めた寄付金の使われ方が広く見えるよう、寄付の「見える化」を推進するための「市民しきんサイト」の運営を行いました。また寄付募集のツールとして、クレジット決済のサイトが活用されています。

## ②寄付者定着プロジェクト

ウェブサイトやメールマガジンを通じて、活動の報告を行いました。

メールマガジンの発行 5回

## (4)賛助会員制度

上記の事業を実施するために、趣旨に賛同する企業や個人を対象に、賛助会員制度を設けます。このような寄付を促進し、社会の課題解決や地域の活性化をしていく財団法人「かわさき市民しきん」のプログラム自体に賛同し、応援してくださる方を対象とします。

### ①パートナー賛助会員 年会費 50万円

企業にとっても、CSR活動や人材育成の活性化につながるよう、プログラムに様々な形で参加できる制度。

企業の人材育成＝プロボノ参加（若手、シニア社員）、協働CSRマーケティングなどの価値を、地域課題解決に取り組むNPOなどへの支援を行う中で一緒に共創します。

### ②賛助会員 企業・団体 1口1万円、5口以上で賛助会員証を発行。

### ③個人会員 1口5千円

### ◆2017年度実績

賛助会員 2団体、個人23名 賛助会費 285,000円、応援寄付(11人と1団体) 合計 95,688円

課題：賛助会員に関しては、年度内の段階では公益法人化できず、それが団体会員勧誘に消極的になってしまい、会員数を増やすことができませんでした。全体としては予算の50%強という数字になってしまいました。寄付集めは今後の課題です。